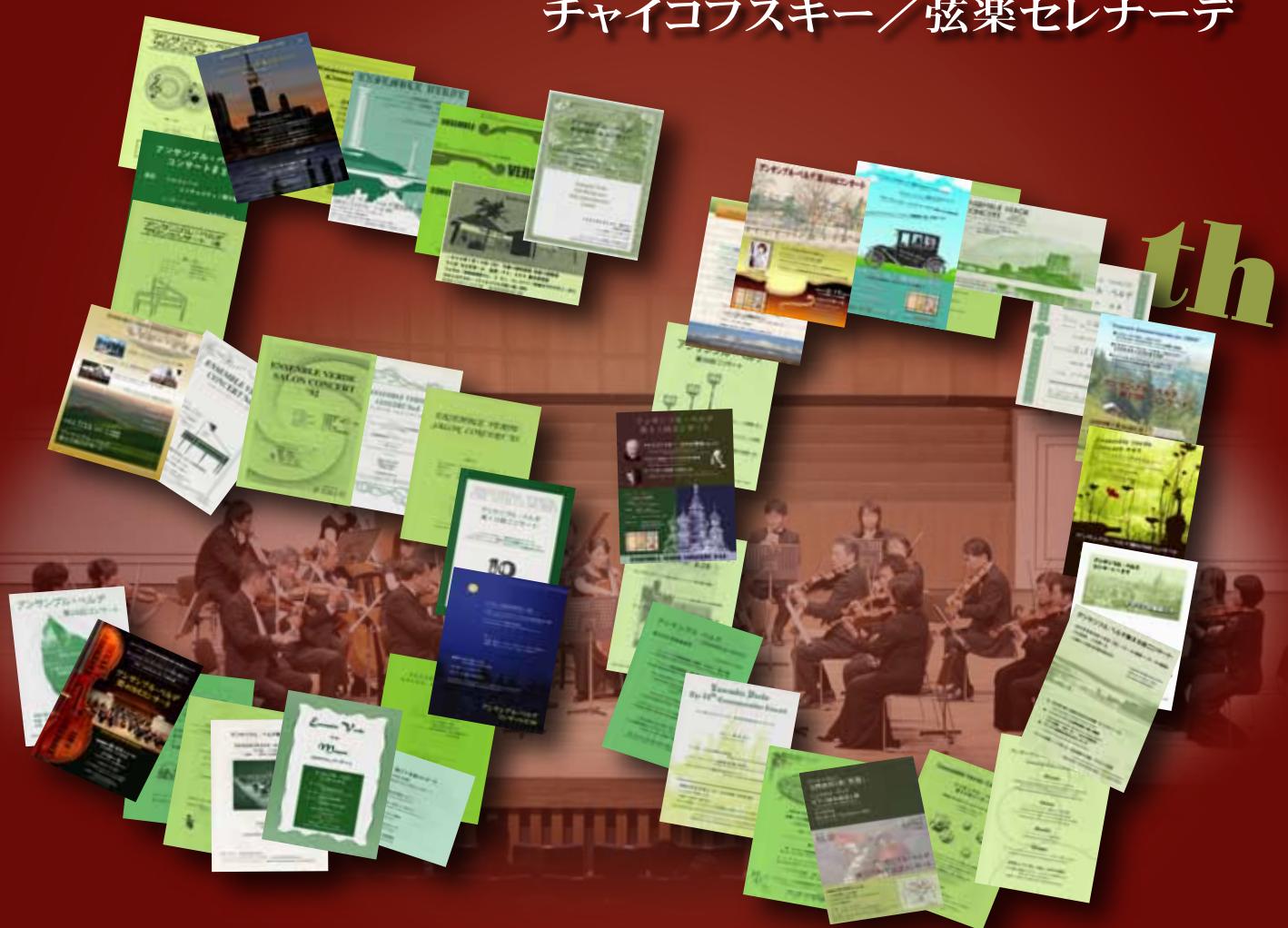


アンサンブル・ベルデ 第50回記念コンサート

ピアノ独奏：米元 えり

ヴィヴァルディ／弦楽のための協奏曲 第4番
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番
吉松隆／アトム・ハーツ・クラブ組曲 第1番
チャイコフスキー／弦楽セレナーデ



2014/2/15(土) 14:00開演(開場13:30)

つくば市 ノバホール (TXつくば駅徒歩3分・右図)

全席自由 ￥1000 (未就学児はご遠慮下さい)

チケット取扱い ノバホール、ヤマハつくば店(二の宮)

連絡先:029-851-4347 (Tomono) • ensemble.verde@gmail.com

後援 つくば市/つくば市教育委員会



●アンサンブル・ベルデについて

アンサンブル・ベルデは1988年設立のつくば市を中心に活動する弦楽合奏団です。1989年7月に第1回コンサートを開催して以来、年2回のコンサートを積み重ねて、今回とうとう50回目となります。その間バロック音楽から、古典派、ロマン派、そして近代現代曲まで様々な時代の曲を演奏してきましたが、今回は50回記念ということで、そのすべての時代の曲目を取りあげます。指揮者がいないアマチュアということで練習は大変ですが、これまでの集大成という意気込みで臨みますので、ご期待と応援をよろしくお願ひいたします。



アンサンブル・ベルデ創立20周年記念コンサート（2008.2.11・ノバホール）
ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲第1番、ピアノ 米元えり／トランペット 長谷川智之



●米元えりさんについて

東京都立駒場高校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業、同大学大学院修了。莊良江、中山靖子氏に師事。またペーター・ショイムーシュ、マルセル・ウークラン、岡部昌、大和哲朗の各氏にも師事。1983年には渡英してマリア・クルチオ氏に師事。ソロリサイタル、室内楽によるコンサートの他、東京交響楽団などピアノ協奏曲を協演。「若葉のコンサート」、「樹」、「萌」を主宰。東京藝術大学講師を長らく勤めるなど、教育にも熱意を注いでいる。アンサンブル・ベルデとは第4回のモーツアルトの協奏曲第14番以来、30回記念のベートーヴェン「皇帝」、20周年記念でのショスタコーヴィチ協奏曲第1番に至るまで、これまでベルデの節目の演奏会を中心に5回も協演、その都度すばらしい演奏をされている。今回の演奏もとても楽しみである。

●演奏曲目について

1) アントニオ・ヴィヴァルディ：弦楽のための協奏曲 ホ短調 RV.133

ヴィヴァルディというと「四季」とか「調和の幻想」などの協奏曲集が人気が高い。一方聴かれることは少ないが、独奏楽器を用いない弦楽合奏と通奏低音のための協奏曲も彼が力を入れた分野であり、多くを残している。作曲者自身この種のものを「協奏曲」や「シンフォニア」などと呼び統一性に欠けるが、バロック協奏曲の特徴を備えながらも、音楽史的には交響曲の歴史の序章として重要である。

2) ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番ト長調 Op.58

ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番は、1806年に作曲された。この年は第4交響曲、翌年には第5交響曲、翌々年には第5番「皇帝」が書かれており、ベートーヴェンが最も油の乗った時期の作品である。「皇帝」が最も有名であるが、この第4番においても様々な革新的な手法が盛り込まれている名曲である。第5番が「皇帝」と呼ばれるのに対して、この4番を「女王」と呼ぶのがふさわしいという人もいるように、やさしさにも溢れている。

3) 吉松隆：アトム・ハーツ・クラブ組曲第1番 Op.70b

吉松隆は1953年生まれ。慶應義塾大学在学中から松村禎三に弟子入りし、作曲家となる。交響曲や協奏曲など多くの芸術作品を発表しているが、一方ではプログレッシブロックに心酔、2009年にEL&P（エマーソン・レイク・アンド・ペーマー）の「タルカス」をオーケストラに編曲、NHK大河ドラマ平清盛の劇中音楽にも採用され話題を呼んだ。このアトム・ハーツ・クラブ組曲は、モルゴーアカルテットの委嘱した弦楽四重奏曲の弦楽合奏編曲版で、吉松によれば「ビートルズの『サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』に『タルカス』とイエスの『こわれもの』とピンク・フロイドの『原子心母』を加え、鉄腕アトムの10万馬力でシェイクした曲」だそうだ。

4) ピョートル・チャイコフスキー：弦楽セレナーデ ハ長調 Op.48

言わずと知れた、弦楽合奏曲では最も人気の高い「ザ・弦セレ」であり、チャイコフスキーの代表作の一つにも数えられる。1880年に作曲され、ハ長調という単純明快な調性で書かれている。アンサンブル・ベルデがこの曲を取りあげるのは4回目となる。前回は10年前の30回記念コンサートであったが、その後新たに加入した若い団員も少なくなく、前回を上回る演奏を目指している。